

# TDU Agora



埼玉鳩山キャンパス

## 学生食堂リニューアル・プロジェクト Ver.3

～学生による改修計画～ ..... 1

### CONTENTS

今月の顔 宮保憲治 教授 (システムデザイン工学部 情報システム工学科) ..... 3	学び探求 全学初年次科目検討委員会 ..... 7
キラリ★電大生 東京千住キャンパス 水泳部 ..... 4	TOPICS ..... 8
働く電大人 川田浩佐さん (平成29年3月 理工学部 電子・機械工学系卒業) ... 5	中学校・高等学校 ..... 9
TDU LABO ハイパワー工学研究室(工学部 電気電子工学科) ... 6	キャンパスよもやま情報 ..... 10
	News ..... 11
	Information ..... 15



特集

埼玉鳩山キャンパス

# 学生食堂リニューアル・プロジェクト Ver.3

～学生による改修計画～

改修後の「HATO CAFE」

埼玉鳩山キャンパスでは、環境整備事業の一環として「学生の企画・設計による学生食堂リニューアル・プロジェクト」を進めてきました。これは学生食堂リニューアルに際して、そのソフト面、ハード面に関して、本学在學生に提案を求め、さらにその実行においても学生が主体的に関わることで、真の意味での学生食堂の実現を目指すというプロジェクトです。すでに、『HATO CAFE』（2014年度）、『樺』（2015年度）の改修工事が完了し、2019年度は学生食堂『樹海』のリニューアル・プロジェクトが始動しました。

## 本プロジェクトにより期待される効果

- ① 老朽化施設の再整備
- ② 学生厚生充実
- ③ 学生に対する実践的な教育機会の提供
- ④ 学生の主体的な学びを応援する大学としての本学の魅力向上
- ⑤ 郊外型キャンパスの利点活用
- ⑥ 施設整備と実践教育の連携
- ⑦ 教職協働の推進

本プロジェクトにより期待される効果として上記を挙げることができます。

このうち、③は建学の精神「実学尊重」に基づき、理工系大学の特徴である「実験」「実習」「演習」といった教育手法をシフトアップし、「実践的」な教育機会を提供するという狙いがあります。また④は、実践的プロジェクトに学生が単に「体験的+受動的」に参加するのではなく、「主体的+能動的」に参加できる環境や体制を構築することを意図しています。さらに、⑤



現在の「樹海」

は都心キャンパスと比較して周辺環境や管理上の制約が少ない「郊外キャンパス」の立地を活かして、キャンパスそのものを「実践的教育の舞台」として積極的に活用するというものです。そして、⑥は大学の施設整備事業を「生きた教材」として教育プログラムに組み入れ、利用主体である学生が積極的に関与することで、学生参加型の施設整備による「実践的教育モデル」を確立することを目指しています。

## 樹海リニューアルプロジェクト始動

現段階で、すでに学生の設計による内装改修案43案が提出されています。これは建築・都市環境学系の2年生から大学院生共通の設計課題として、約1ヶ月間で内装改修案の模型と提案書を制作するという授業の成果物です。この模型と提案書を本館ロビーに展示し、埼玉鳩山キャンパスの学生や教職員にアンケート調査を実施します。

同時に実施案選定のための学生スタッフを募集し、アンケート調査に基づく1次審査、学生スタッフによる2次審査と最終審査が行われます。そして、7月上旬から中旬頃に最優秀案を選定。その後、教職員の協力のもとで最優秀案に基づく基本設計、実施設計、施工を進め、2020年3月には生まれ変わった学生食堂がお披露目される予定です。

### 埼玉鳩山キャンパスの学生参加型プロジェクト

#### ● HATO プロジェクト ～モチーフは鳩時計、メニューも改善～

2014年4月から2015年3月にかけて実施された改修プロジェクト。従前の4号館1階カフェテリア「鳩」を現在のHATO CAFEに改修するにあたり、主に改修設計を担当するインテリア班と、新メニューや食器等を担当する企画・メニュー班に分かれて検討を行いました。インテリアの改修にあたり36件の改修案が寄せられ、第1次審査および第2次審査を経て、最終的に学生スタッフによる最終案(基本構想案)を選定。基本構想案に基づき、基本設計案の検討が進められました。審査の過程においては、本館1階エントランスホールに模型展示を行い、オープンキャンパスにおいても審査過程を展示するなど、広く在学生や高校生に見える形で進めました。

改修設計の最終案は「鳩」という言葉から鳩時計の形をモチーフとした案が採用。鳩時計の輪郭をかたちづくる天井や壁には木製の格子を用い、木のあたたか

みを感じられる空間となりました。また、テラスに面する窓の腰壁を撤去し、床から天井までのガラス窓に変更することで、周囲の豊かな自然を満喫できる開放感のある空間に生まれ変わりました。企画・メニューについても、学生と食堂担当者が打ち合わせを行い、メニューの改善や、什器を新調し、2015年4月に新装オープンしました。



〔HATO CAFE〕

#### ● けやきプロジェクト ～天井は葉のイメージ、待ち時間も短縮～

2015年4月から2016年3月にかけて実施のHATO CAFEに続く改修プロジェクト。4号館2階第1学生食堂「けやき」を、HATO CAFEの改修と同様、インテリア班と企画・メニュー班に分かれて検討を行いました。インテリアの改修にあたり35件の改修案が寄せられ、基本設計案の検討が進められました。

最終案は、埼玉鳩山キャンパスの緑豊かな自然と、けやきの木の下に集まった人たちが、葉と葉の重なりとその隙間から差し込む光のもとで、くつろぎながら食事をしている姿をイメージしたものでした。具体的には、葉に見立てたアルミ複合版のパンチングパネルを天井から吊るし、その高さや配置に変化をつけ、意図的に不規則性をデザインに取り込むことで、豊かな自然の中で食事をしているような雰囲気の実現を目指しました。企画・メニュー班については、従来から

のピュッフェ形式で食材を提供している方法を踏襲し、学生の待ち時間をいかに短くするかについて検討を行いました。サポート募金を活用して、スライドトレイ等を購入し、レジまでの支払い時間の短縮につながりました。新装「樺」として2016年4月にオープンしました。



〔樺〕

# 新世代のネットワーク技術と 超スマート社会の基盤技術の実現に貢献



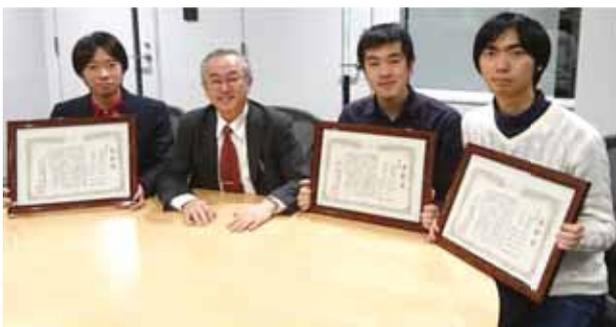
システムデザイン工学部  
情報システム工学科  
**宮保 憲治 教授**

私の先端ネットワーク技術研究室では、次世代ネットワークを推進するための挑戦的な研究テーマを推進しています。Society 5.0の実現に向け、以下の研究テーマがあります。各テーマは相互に関連し、研究室の学生同士が研究内容を交換し合い、切磋琢磨して研究活動を進めています。

1. ディザスタリカバリ技術の応用システムの研究
2. 可視光通信、LPWA を活用したIoTの応用研究
3. サイバー攻撃の分析法と対策技術の研究

超分散ネットワークとクラウドに基づいたセキュリティに重点を置いた研究に関しては、不測災害等発生時の事業継続性の重要性に鑑み、学部生および大学院生と共同で2018イノベーションJapan(大学見本市)へのデモ展示も兼ねてディザスタリカバリ技術(DRT:Disaster Recovery Technology)の応用実験評価を行いました。本研究成果は平成30年度防衛基盤整備協会「情報セキュリティ」懸賞論文で優秀論文賞に繋がりました。

DRTは秘密電子メール配信に応用した場合、通信事業者を自動的に複数でかつ同時使用でき、異経路分散に基づくデータ保護の安全性を保証できます。本実験ではその適用条件を明確化すると共に、ネットワークやクラウド資源を有効活用することで、国際ネットワークを活用した場合のセキュリティ保証を低コストで実現できる技術の検証も行いました。本技術は次世代の



「情報セキュリティ」懸賞論文の受賞メンバー



グーグルグラスと可視光通を活用した拡張現実(AR)実験

ネットワークサービス上で広範な応用範囲が想定でき、情報セキュリティ意識の向上に大きく貢献できたことが受賞の理由と考えられます。

研究室ではグループワークによる研究活動を重視し、芝浦工大・工学院大との合同研究発表会を恒例行事として実施しています。4年次以上の学生は電子情報通信学会の全国大会や国際会議等での研究論文発表により、これまで計15件の学生奨励賞や国際会議論文賞等の受賞(年1回程度のペース)を達成しています。

私、個人としては今年の4月に、2019年電気通信大学同窓会賞を受賞しました。これはATM交換ノードの研究実用化、超分散ネットワークを活用したDRTの研究実用化並びに遅延時間保証が可能なパケットスイッチング技術等に関わる貢献によるものです。大学卒業後の45年間を振り返り、深い感慨を覚えます。



研究室学生との集合写真

## 宮保 憲治 教授 プロフィール (システムデザイン工学部 情報システム工学科)

Profile

- 1974年 3月 電気通信大学 応用電子工学科卒業
- 1974年 4月 日本電信電話公社(現NTT)電気通信研究所
- 1997年 3月 電気通信大学 博士(工学)取得
- 2003年 4月 東京電機大学 情報環境学部 情報環境工学科 教授  
技術士(情報工学部門)取得
- 2010年 4月 東京電機大学大学院 情報環境学研究科 情報環境学専攻 主任  
東京電機大学 総合研究所 情報研究部門長(現 第三部門長)
- 2012年 4月 同 千葉共同利用施設長
- 2013年 9月 電子情報通信学会 フェロー称号授与



東京千住キャンパス 水泳部

## 関東学生選手権 3部昇格に向けて ～着々と進化を続ける部員たち～

主将 小野 格(未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 3年)



合宿の練習風景

水泳部は4年生4名(男子3名、女子1名)、3年生9名(男子8名、女子1名)、2年生8名(男子8名)、1年生10名(男子8名、女子2名)の計31名で活動しています。

「泳ぎたい!」という仲間が集まり、大会の結果だけでなく、大学の部活動での経験を得るといふ点も目標として掲げています。そのため、活動の運営を部員全員が役職・役割を持って行い、みんなで部活を盛り上げています。

平成29年度は関東学生選手権に出場者4名(男子4名)、出場種目7種目、日本選手権出場者1名(男子1名)、出場種目1種目という成績でした。日本選手権に出場する部員がいることは大きな目標となる中で、関東学生選手権への出場人数、出場種目数を増やすことが次年度への課題となりました。平成30年度は関東学生選手権へ出場者9名(男子8名、女子1名)、出場種目13種目と大幅に参加人数が増えました。また、男子は待望の2つのリレーの出場が実現し、部に活気が生まれました。

男女とも所属は性別での一番下となる男子は4部、女子は2部ですが、出場者が増えたことにより出場するだけでなく、それぞれ戦える部員を部として想定することができるようになりました。その他の大会の成績としては東日本理工科系水泳大会で5位に入賞する

部員や、南関東六大会で優勝、3位といった表彰台に上られる部員も出てきました。

今年度は、例年利用している足立区の千住スイミーに加え、本学千住キャンパス5号館にあるスポーツクラブネサンスのプールをお借りすることができるようになり、定期的な週2回の練習環境が整いました。これにより例年では難しかった複数のレベルの練習や種目別の練習など練習メニューの幅が広がり、より効率良く、計画的な練習が行えるようになりました。今年度は関東学生選手権10人以上、15種目以上の出場を達成できるように日々の練習に励んでいきます。

今後の水泳部の活躍にご期待ください!



ブイを押し合う楽しい練習

# あらゆる産業の温度管理のエキスパート ～大学の講義を通じて将来のビジョンが明確に～



**CHINO**

株式会社チノー  
機器開発センター機器開発室

**川田 浩佑さん**

平成29年3月 理工学部 電子・機械工学系卒業



学生時代、研究中の様子(左側が筆者)

私は東京電機大学入学時、メーカーに就職したいという漠然とした目標しか持っていませんでしたが、理工学部では「主コース・副コース制」を導入しており、幅広い分野を学ぶことができました。入学時に将来就きたい職業が固まっていなかった私にとって、マッチしたシステムでした。

電子・機械工学系では、製図と実験の講義がありますが、この2つの講義が就職してからとても役立っています。製図の講義では、手書きで図面作成を行うことで、設計を基礎から学ぶことができました。この講義を通じて、将来は設計業務の仕事に携わりたいと考えるようになりました。

実験では毎週のようにレポート作成に追われましたが、レポート作成のスキルが身に付きました。レポートに必ず記載する項目のひとつに測定機器があり、そこで私は今勤めているチノーという会社を知りました。測定機器業界は、世間からの認知度は低い業界ですが、モノを作るには欠かせない業界です。チノーは、その

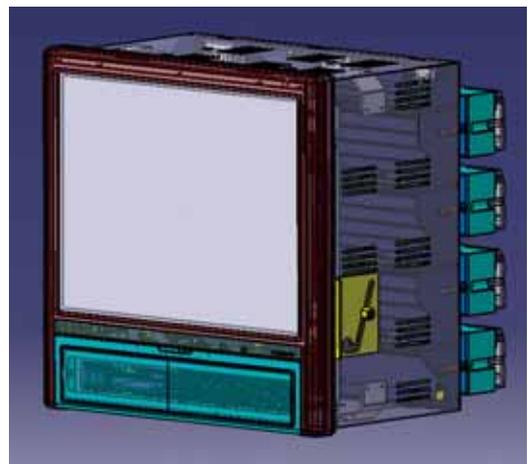
中でも温度に特化しており、食品、化学、家電、鉄鋼、自動車等、数多くの産業から温度管理の分野で必要とされています。

現在、私は製品開発の機械設計を担当しています。仕事内容は、部品選定から始まり、図面作成、試作品の組立、評価試験等を行っています。先日入社して初めて、私が設計した製品をお客様に納めました。やりがいを感じたこの感情を忘れず、今後もより良い製品を設計し、販売するために日々努力していきます。

大学で過ごす時間は、将来を考えるうえで非常に大切な時間です。しかし、在学中はレポート作成、試験勉強、クラブ・委員会活動等に手一杯で、時間の経過が速く感じるかもしれません。ですが、就職という目標を忘れずに、早い時点で将来の職業を明確に決め、それを実現するために大学でしっかり学び、考える力を養ってください。そして、卒業する時には充実した大学生活だったと言えるようになって欲しいと思います。



製品評価中



3DCADで設計した製品(記録計)

# ハイパワー工学研究室

～普段何気なく使っている電気を安全に送るために～

工学部 電気電子工学科  
腰塚 正 教授



今日我々の生活には電気は必要不可欠な存在です。電気は発電所で作られ、送電線を通して我々のものに送られています。この「作る」、「送る」、「配る」を「電力系統」と呼びますが、ここでは様々なトラブルが発生します。最も多いのは落雷です。落雷による故障では63kAと言った大きな電流が流れるため、故障箇所を切断する、すなわち遮断器で「電気を切る」事が最重要となります。遮断器は油、空気、SF6ガス、真空などに変遷してきましたが、電気を切る際に発生するアーク放電という現象はまだ未解明な部分がたくさん残っています。

また、効率よく電気を送るために「変圧器」が使用されます。変圧器は電気と磁気の組み合わせで成り立っており、これまた様々かつ複雑な現象を系統に生み出します。我々の研究室では、これら電力系統で発生する現象、電流を切るときのアーク放電の現象などを研究し、より安定的な電力供給に寄与したいと考えています。



みんなでディスカッション

研究においてはパソコンを用いた解析は勿論、実験も行っています。実験装置の多くは手作りで、電線、銅板、コンデンサ、樹脂、木材などを購入し、自分たちで加工、作成します。失敗も多くありますが、成功したときの達成感は別格です。

研究室の雰囲気は、和気藹々としたもので、笑顔が絶えないアットホームな研究室となっています。研究のみならず、別の話題などで夜遅くまで話し合いが盛り上がることもあります。

日本では電力関係の技術者が減少傾向にありますが、世界ではまだまだ電力系統は発展していきます。日本発の技術の提供、さらには世界で活躍できる若い技術者の育成にこれからも力を入れていきたいと思っています。



自作の実験装置と実験の様子



英語でプレゼンテーション(4年生)

## 「電大ガールズ」 D-girls

4月13日、電大ガールズ主催のレクリエーションイベントが行われました。例年の運動会の代わりとして企画されたイベントで、電大ガールズ初の試みとなりました。友達作りのきっかけになるようなイベントにするため、色々なゲームを企画しました。手探り状態からのスタートでしたが、皆さんお楽しみいただけましたようです。

6月はオープンキャンパスに参加します！受験生に向けて電大の魅力を伝えられるよう準備を進めています。今後も電大ガールズの活動にご期待ください！！



男女合わせて21名が参加

電大ガールズリーダー 工学部 応用化学科 3年 小菅 はるな

# 新しい全学初年次科目の実践に向けて ～対話中心の科目で汎用的スキルの基礎を育成する～

全学初年次科目検討委員会

この4月から1年生を対象にした対話型の科目を新しくデザインしてスタートしました。これは安田学長の発案により設置の検討が開始され、大学での学びや大学生活、その後の人生がより有意義なものとなるよう、またコミュニケーションが円滑に取れるための科目となるよう、委員会で検討しました。教養科目である「東京電機大学で学ぶ」の内容を変更して、社会に出る上で必要なコミュニケーション力・批判的思考力・文章表現力などの汎用的スキルの基礎を養うことを目的としています。この科目はまだ、その試行が選択科目として始まったばかりですので、今回は科目の運営にあたって準備してきた内容をご紹介します。

1年間の委員会活動を通じて、科目内容や科目で利用するテキスト執筆などを、教育改善推進室長を中心に同副室長や学長補佐の先生方と連携して行いました。科目を簡略化して紹介すると、テキストを読む(予習)、講演を聞く(授業)、それらについて対話する(授業)という構成になっています。「対話する」ことがこの科目の最大の特徴であり、「対話」に必要なファシリテーション能力<sup>\*</sup>の向上のため、科目を担当する教員・学生TA(大学院生副手)/SA(学部生スチューデントアシスタント)や事務職員を対象にしたファシリテーション研修も実施しました。これは本学の学術振興基金の援助を受けて実施させて頂きました。

※話し合いなどを円滑に進めるためのガイドのような存在

教育改善推進室長  
広石英記教授



実際の授業の場面を想定した研修では、参加者は学生役となって4人1組をつくり、ファシリテーターの促しによって、様々な想いを言葉にしました。学生役となることで、実際の授業運営の際に必要な学生間の話しやすい雰囲気づくり方や話したい気持ちを引き出す「問いかけ(質問)」の仕方などを学生目線で学ぶことができました。

こうした検討や研修をもとに科目内容を改善しながら、科目の運営を進めています。また別の機会に、科目を実施した教員やTA/SA、受講学生の声をご紹介しますと考えています。



授業の場面を想定した研修

## 新しい時代を拓いた科学・技術 vol.21

### カール・フリードリヒ・ベンツ ドイツ ● 1844年～1929年

世界初の実用的なガソリン自動車を発明

**「私が何よりも情熱を注いでいるものは発明である。  
その情熱は決して冷めることはない」**

#### 自動車の産みの親

蒸気機関が発明されてからわずか1世紀後の19世紀後半。機関車運転手の息子だったベンツはエンジニアを志し、総合技術学校で内燃機関を学びながら、自由に走る乗物を思い描いていました。さまざまな工場で働いたのちに独立。2ストロークエンジンについて熱心に研究を続けた彼は、1879年にエンジンの始動に成功。その後、速度制限機構、電池を使って火花を発生させる点火プラグ、キャブレター、クラッチ、ギアシフト、ラジエーターも開発。1886年1月29日、原動機付き三輪自動車「パテント・モートルヴァーゲン」にドイツ政府から特許が与えられ、ベンツは世界で初めてガソリン自動車を発明したエンジニアとなりました。また、夫の発明を広めたい一心で約100kmの長距離旅行を行った妻のベルタは、世界初の女性ドライバーといわれます。



©TDU

同じ頃、ゴットリーブ・ダイムラーがモーターを積んだ四輪馬車「モートルキャリッジ」を完成させました。互いを知らなかった2人でしたが、のちに合併してダイムラー・ベンツ社を誕生させました(現在のダイムラー社)。当初は時速20kmほどだった自動車は、間もなく移動や輸送の主役を担うまでになりました。



自己紹介で緊張した面持ちの新生

## 新生向け仲間づくりを支援するプログラム

東京千住キャンパス事務部

4月3日に東京千住キャンパスにて、工学部、未来科学部、システムデザイン工学部の新生を対象に仲間づくりを支援するプログラムを実施。学科内で10名程度のグループを作り、様々な課題に取り組みました。

大学生活は高校までのようにクラス分けがなく、個別に履修科目を選択するため、コミュニケーションが苦手な学生にとっては仲間づくりがうまくいかないケースもあります。本学では2012年より、仲間づくりのきっかけとして入学直後のオリエンテーションにこのようなプログラムを用意しています。

当日のプログラムでは、はじめは緊張した面持ちの新生が、「自己紹介」や、「グループ内で共通点を探す」という課題でコミュニケーションを取るうちに、教室にたくさんの笑い声が溢れました。「指定された漢字をどれだけ多く探せるか」の課題では、1人で漢字を考えるより、グループで力を合わせて考えることで多くの漢字を発見することができ、大勢で取り組むと結果が向上することや、コミュニケーションの重要性を実感することができました。

プログラム終了後には、積極的に連絡先を交換するなど、これから学生生活を共に歩む大切な仲間ができたようです。



すっかり打ち解け笑いが溢れる教室



7年ぶり悲願の優勝

## 第40回 合同体育祭を開催

東京千住キャンパス事務部

5月12日に埼玉鳩山キャンパスのグラウンドにて、好天に恵まれたすがすがしい五月晴れの中、第40回合同体育祭が開催されました。当日は約600名の学生・教職員が参加し、共に汗を流しました。

今年は両キャンパスの体育祭実行委員会委員長である飯島康文さん(工学部先端機械工学科3年)と、野口諒音さん(理工学部情報システムデザイン学系3年)を中心に準備を進めてきました。当日は大玉おくり、玉入れ、騎馬戦、綱引きがキャンパス対抗で行なわれ、白熱した戦いが繰り広げられました。また、100メートル走やロングランの個人競技も実施され、多くの学生が好記録を狙うべく熱心に参加しました。

競技以外にも文京学院大学のLEOPARDSや東京千住キャンパスダンス部によるパフォーマンス、来賓によるパン食い競争が実施され、体育祭をおおいに盛り上げていました。

結果は、東京千住キャンパスが190点を獲得し、7年ぶりの優勝となりました。

今年も多くの方にご協力・ご参加いただき無事、終了することができました。学生生活の充実と学内交流の為、今後も様々な催しを行っていきたいと思います。



盛り上がった綱引き

## 東小金井駅とのコラボレーション ～歩きスマホ撲滅キャンペーン～



生徒会役員の生徒たちが駅構内で活動



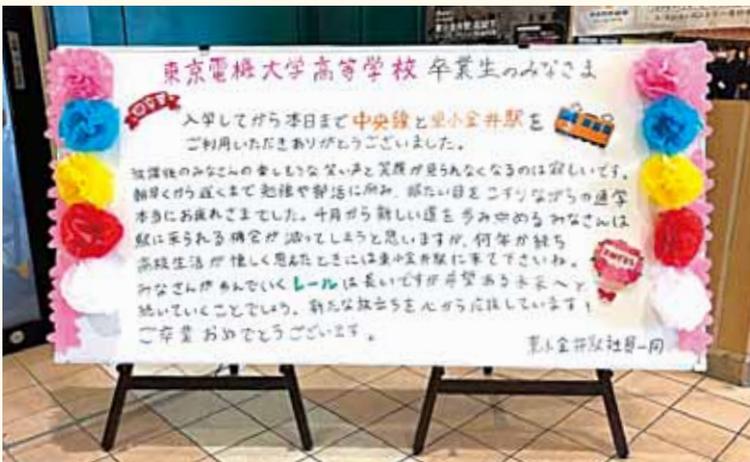
駅に掲示された漫画美術同好会が作成したポスター

中高の校舎はJR東小金井駅北口から徒歩5分のところにあり、在校生の約8割が、この東小金井駅を利用しています。今では自動改札機が普及したため、生徒たちが駅員の方々と直接触れ合う機会はほとんどなくなりましたが、それでも本校の鉄道研究部の生徒たちが、昨年10月に行われた東小金井駅でのイベントに参加し、駅構内の商業施設「nonowa 東小金井」と協力して、小金井市の地域振興に一役買ったたりもしています。

東小金井駅の駅員の皆さんも、そうした活動を通して本校生徒たちには親しみを抱いてくださっており、この3月に行われた高等学校卒業式の朝には、改札口の横に、「東京電機大学高等学校 卒業生のみなさま」と題した素敵なメッセージを、サプライズで掲げてくれました。この日、卒業生たちは思いがけなく心のこもった贈り物に出会い、心温まる思いで本校を巣立っていきました。

そうした中で、本校生徒たちが地元に貢献できることはないかと考えた結果、高等学校生徒会が中心となり、東小金井駅構内にて、「歩きスマホ撲滅キャンペーン」を行いました。ここ数年、「歩きスマホ」が社会問題になっており、特に駅構内では大事故につながる恐れがあるからです。漫画美術同好会がデザインしたポスターを駅構内に掲示し、高校生徒会の執行部員が利用客の皆さんに注意喚起のメッセージを記したポケットティッシュを配布しました。また、放送部の生徒が「歩きスマホは危険です」と構内放送を行い、生徒たちと駅員の皆さんが協力して、「歩きスマホ」の危険性を呼びかけました。

今回の活動を通して、東小金井駅を利用している地域の皆さまにも、本校生徒たちの様子を認知していただけたことと感じています。今後もさまざまな活動を通して、地域との密着を図っていきたいと考えています。  
(高等学校教頭 平川吉治)



東小金井駅からの卒業メッセージ(平成31年3月9日)



鉄道研究部イベント

東京千住キャンパス  
あさひまつり



5月11日に3号館キャンパスプラザにて、千住地域の保育園が主催するイベント「あさひまつり」が開催されました。このイベントは、地域交流、子育て支援、保育所紹介を目的に毎年5月に行われています。

手作りおもちゃコーナー、金魚(おもちゃ)すくい、フリーマーケットなどが行われ、保育園に通う子供たちとその保護者の他、近隣の子供たちが集まり賑わいを見せました。  
(総務部 石井)

埼玉鳩山キャンパス  
第3回 理工系サッカー定期戦



4月20日に埼玉鳩山キャンパスグラウンドにて、第3回理工系サッカー定期戦・本学vs芝浦工業大学が開催されました。過去2回は本学が惜敗していましたが、今回は4-3で初勝利を収めました。

この試合と併せて、鳩山中学校と東松山市立東中学校のサッカーの試合も行われ、両校の中学生が本学の人工芝グラウンドでのプレーを体験しました。  
(理工学部事務部 長坂)

東京小金井キャンパス TDU 高校生活スタートセミナー

高校1年生を対象に、4月23日～25日の2泊3日で湯河原・箱根にて高校生活スタートセミナーを実施しました。今年、研修に取り入れた体験型ワークショップ、シアターラーニングでは、クラスをまたいでグループを作り、コミュニケーションの取り方や自己表現の仕方を学びました。

高校生になって初めての宿泊行事でしたが、充実した3日間になったようです。ここでの経験が、高校生活において新しい一歩を踏み出すきっかけになってもらえたらと思います。  
(引率教諭 小俣)



文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」

AI活用リモートメンテナンス研究会 亀田総合病院を訪問  
～先駆的病院の医療機器管理の現場を視察～

4月11日に、千葉県鴨川市にある亀田総合病院で、第10回研究会を開催しました。亀田総合病院は、全国に先駆けて電子カルテを導入した先駆的な病院であり、また、地域の自治体と協力して、在宅見守りのシステム構築も前向きに検討しています。今回の視察では12名が参加し、亀田総合病院長自らが語る熱い思いを伺い、未来の病院経営の有り方について見識を深めました。また、医療機器管理について、意欲的な臨床工学技士が多様な医療機器の一元管理システムを独自に開発し、医療機器を効率的かつ適切に点検、管理する様子を視察し、活発に意見交換を行いました。

先駆的病院関係者との直接の意見交換により、病院での医療機器管理の実態、課題だけでなく、将来のIoTを活用した保守・点検など医療機器管理の方向性について貴重かつ有意義な研究会となりました。



亀田総合病院での研究会

受賞  
情報

## 顕著な活躍をした電大人を紹介します。



**桑村 駿太さん**(修士1年)  
 未来科学研究科 建築学専攻(建築・都市空間研究室)  
 (一社)埼玉建築設計監理協会 理工系学生奨励事業  
 第19回卒業設計コンクール  
**準埼玉賞**  
 平成31年4月14日



**宮保 憲治教授**  
 システムデザイン工学部 情報システム工学科  
**2019年 電気通信大学同窓会賞**  
 平成31年4月4日



**下山 雪さん**(4年)  
 工学部 電気電子工学科(ナノデバイス研究室)  
 電気学会東京支部  
**電気学術女性活動奨励賞**  
 平成31年3月31日



**並木 敬太郎さん**(4年)  
 工学部 電気電子工学科(デジタル信号処理研究室)  
 電気学会東京支部  
**電気学術奨励賞**  
 平成31年3月31日



**若林 孝典さん**(4年)  
 工学部 電気電子工学科(デジタル信号処理研究室)  
 電気学会東京支部  
**電気学術奨励賞**  
 平成31年3月31日



**栗原 修平さん**(修士2年)  
 未来科学研究科 情報メディア学専攻(アクセシブルテクノロジー研究室)  
 ライフサポート学会  
**奨励賞**  
 平成31年3月16日



**林 公洋さん**(修士2年)  
 理工学研究科 電子・機械工学専攻(バイオメカトロニクス研究室)  
 第19回 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会  
**SI2018 優秀講演賞**  
 平成31年3月5日

(受賞日順)

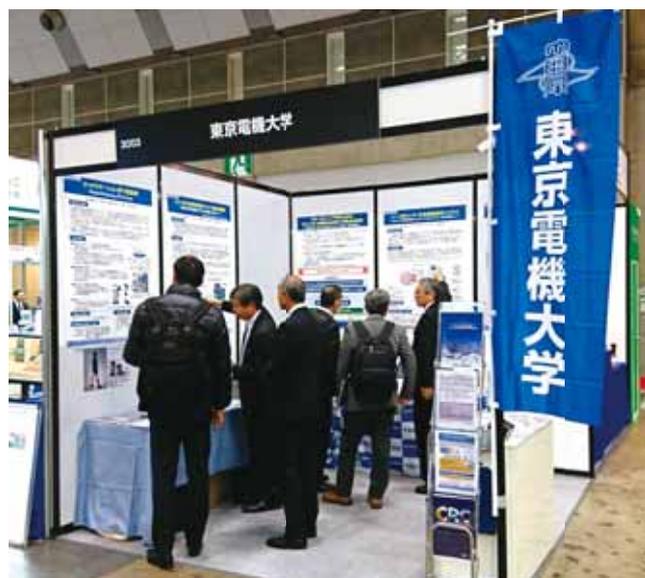
※所属・学年は受賞時

## 「Medtec Japan 2019」出展報告(私立大学研究ブランディング事業)

### 研究推進社会連携センター

3月18日から3月20日に東京ビックサイトで開催された「Medtec Japan 2019」に出展しました。Medtec Japanは、サプライヤーと医療機器メーカーが活発に情報収集・商談ができる、医療/介護・福祉/臨床検査等を中心とする展示会から成るアジア最大級の専門展示会です。

本学のブースでは、私立大学研究ブランディング事業「グローバルIoT時代におけるセキュアかつ高度な生体工学拠点形成」の新たな取り組みであるAI活用リモートメンテナンス研究会や、ME関連の公開講座の開催等の活動紹介とともに、最新の手術器具、福祉用具、高機能の生体材料などの、研究成果を展示しました。



出展ブース

### 【研究成果に係る出展内容】

- 「鏡視下施術における手術情報リアルタイム取得・解析システム」  
理工学部 理工学科 電子工学系 宮脇富士夫 教授
- 「シート型センサ・生体情報測定システム」  
工学部 電気電子工学科 植野彰規 教授
- 「リハビリテーション用長下肢装具」  
工学部 先端機械工学科 三井和幸 教授
- 「コンパクト軟性手術器具」  
工学部 先端機械工学科 桑名健太 准教授

## インド理科大学と学術交流協定を締結

### 国際センター

3月26日、インド理科大学の代表団5名が本学を訪問し、学内の施設を見学。安田浩学長、平栗健二統括副学長と面会し、学術協定書を取り交わしました。

インド理科大学は、インド南部のコンピューター産業の中心地バンガロールにあり、生物学、化学、物理学、数学、電気、電子工学、コンピューターサイエンス、機械工学など42の専攻を持つインド国内トップレベルの大学です。

学生総数は4,200名で、そのうち博士課程2,800名、修士課程900名、学部生500名。大学院生を中心に本学の専門分野とつながりの深い分野の最先端の研究活動が活発に行われており、インド国内の大学ランキングや研究実績で第一位の評価を受けています。

今後、本学の教員及び学生との学術交流が期待されます。



インド理科大学との協定時の様子

## 実践知プログラム(履修証明制度)が「教育訓練給付制度」の指定講座に

東京千住キャンパス事務部

「職業実践力育成プログラム(BP)」として文部科学大臣から認定されている実践知プログラムが、厚生労働省の教育訓練給付制度(一般教育訓練)の指定講座となりました。

教育訓練給付金とは、働く方の主体的な能力開発の取組み又は中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とし、教育訓練受講に支払った費用の一部が支給されるものです。

雇用保険加入期間等の条件を満たす方が実践知プログラムに登録され12箇月で修了した場合、登録料および履修費の20%に相当する額(上限10万円)がハローワークより支給されます。また、今後は教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)への変更申請も予定しております。

●詳細は、実践知プログラム(履修証明制度)の説明をご参照ください。

<https://phronesis.dendai.ac.jp/>

### 後援会だより

#### 第1回常任評議員会 開催

4月13日に東京千住キャンパスにて、東京電機大学後援会第1回常任評議員会を開催しました。今回は平成30年度後援会事業報告案及び決算報告案のほか、2019年度後援会事業計画案及び予算案の審議を行い、いずれも承認されました。

本常任評議員会で承認された議題については、5月25日開催予定の後援会評議員会の承認により決定する予定です。



常任評議員会の様子

#### 事業計画概要

##### ①父母懇談会事業

キャンパス会場に加え、地方10会場で開催

##### ②広報事業

学苑の年3回発行、父母のための東京電機大学ガイドの発行、学生生活スタートブックの発行、後援会メールマガジンの発信

##### ③学生支援事業

クラブ活動への補助、就職行事への補助、イベント支援・アイデアコンテストへの補助、食生活改善・学内環境整備への補助、こころとからだのサポート24への補助、仲間づくり支援への補助

### 校友会だより

#### 大学同窓会公開講演会(千住日の出寄席)を開催

4月20日に東京千住キャンパス丹羽ホールにて平成31年度大学同窓会公開講演会を開催し、一般413名、卒業生107名の計520名が来場しました。

講師にアマチュア落語家の若木家元翁氏をお招きし、「落語の世界～これがわかると落語は十倍楽しい」と題してお話をいただきました。60分の講演会は、元翁氏の落語家らしい洒落な語り口と内容で観客を惹きつけていました。

講演会後は3年前に好評をいただいた「千住日の出寄席」を開催し、足立区出身の林家たけ平師匠による「熊五郎の出世」をはじめ、本物の落語を堪能しました。



千住日の出寄席



学生だより

## 第40回合同体育祭を終えて



第40回合同体育祭 鳩山キャンパス実行委員長  
理工学部 情報システムデザイン学系 3年  
野口 諒音

5月12日に埼玉鳩山キャンパスグラウンドにて、第40回合同体育祭を開催しました。当日は天気にも恵まれ絶好の運動日和となりました。

今年の体育祭のテーマは「協調」としました。新元号となり初めて迎える体育祭を両キャンパスの学生が協力して準備を進め、参加者全員で一体となって盛り上がりとういう想いを込めています。

結果は、東京千住キャンパスの優勝となりましたが、両キャンパスの学生が一所懸命に競技に参加する姿を見て、体育祭実行委員会として、準備・運営を進めてきて良かったと思いました。

最後に、体育祭開催をご支援いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



白熱した騎馬戦



100メートル走

## 出版局 新刊のご案内

4月発売の新刊は2点！ いずれも教科書向けのテキストです。  
本学の教員が執筆に携わっています。



## 医用工学の基礎

土肥 健純 監修 / B5判 240頁 3,132円

医用工学(生体磁気、生体計測、治療機器、福祉機器、再生医療)を体系的に学べる教科書。医療機器の開発や国際展開事業を考える学生や若手研究者向け。



## はじめての振動工学

藤田 聡・古屋 治・皆川 佳祐 著 / A5判 176頁 2,700円

振動工学の内容において一自由度系の振動に特化して解説。基礎をしっかりと理解し、応用力を育てることに力を置いた。



今月の俳句

教職員親睦会「千住俳句会」

春泥を踏みて服喪の友の家  
寝間からの指図あれこれ風邪の妻  
昨日今日明日は勤めに風邪の床

廻子(大園成夫)  
知多(絹川博之)  
七美男(松田七美男)

# Information

## 入試センター

### オープンキャンパス開催

オープンキャンパスでは、様々なプログラムを用意し、工夫をこらした学科・学系ごとの展示やワークショップ、普段見ることができない研究室などを公開しています。

予約不要、入退場自由でお気軽にお越しいただけます。  
是非ご来場ください。



#### 開催日程

**東京千住キャンパス** 10:00～16:00 (9:30受付開始)

北千住駅東口(電大口)徒歩1分

●システムデザイン工学部 ●未来科学部 ●工学部 ●工学部第二部(夜間部)

6月16日(日)、8月3日(土)、8月4日(日)

**埼玉鳩山キャンパス** 10:00～16:00 (9:30受付開始)

東武東上線高坂駅西口 スクールバス8分

●理工学部

6月15日(土)、7月14日(日)、8月3日(土)、8月4日(日)

◎お問合せ 入試センター TEL:03-5284-5222

## 大学案内2020が完成しました！

今年度の大学案内は、内容・デザイン共に全面リニューアルを行い、コミュニケーションマークとして「D!」を採用。

これは、DENDAIのDであることはもちろん、Diversity、Difference、Designなどの意味も表しており、驚きの未来を切り拓く本学をシンプルに記号化したものです。一新したデザインとともに本学の認知向上を図ります。

大学ホームページから資料請求頂けます。お気軽にお申し込み下さい。



2020年大学案内表紙

#### 編集後記

特集に掲載させていただいた、学生参加による埼玉鳩山キャンパス学生食堂の改修はまだプロジェクトが始動したばかりですが、これまでの実績から考えても期待が大きく、完成が待ち遠しく感じます。

最後になりましたが、新年度が始まったばかりのお時間の無い中にも関わらず、今月号もたくさんの方々のご支援によって発行することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

# TDU

学校法人東京電機大学 (総務部企画広報担当)

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

TEL. 03-5284-5125 FAX. 03-5284-5180

E-mail:soumu-kikaku@jim.dendai.ac.jp

<https://www.dendai.ac.jp/>



この印刷は環境保護の為、印刷に伴う廃液を排出しないシステムで印刷されています。